

学校評価アンケートの結果から②

まず、「人権」にかかる項目についてお知らせします。

「人権」の取組では、各学級で、「自分のこんなところが好き」「自分にはこんないいところがある」「自分ってやったらできるやん」といった自尊心や自己肯定感を高める取組を進めました。

具体的には、子ども（たち）に決めさせ、自分（たち）でやり切らせることで、達成感を感じさせる機会を持つたり、人権学習や一枚文集などの取組を通して、自分自身のことや自分の家族

や暮らしについて見つめる機会を持つたりすることを大切に取組を進めてきました。また、そうした取組とともに、互いの思いや考え、あるいは暮らしなどを伝え合う機会を持つことで、互いのことを知り合うことも大切にしてきました。

先日、参観させてもらった授業の中で、外国にルーツをもつ子どもが、「親が病院に行くときに、通訳のために学校を休まなくてはいけないということを、一枚文集を通して、みんなに伝えることができたので、今は、クラスの中で『安心』して過ごすことができます。」といったことを話していました。「そんなこと、もっと早く言ったらよかったんじゃないの・・・」と思うのではなく、そうしたことから、言えなくしていた自分たちがいたんだということに子どもたちが気づいたからこそ、今の「安心」できる関係が生まれたんだと思います。

そうした点で、アンケートの「自分が好き、自信があると言える子ども」が増えたことは、まわりの子どもたちも含め、「ありのままの自分」を受け入れてもらえているという「安心感」が、学級の中にできてきている現れであると考えられています。

また、「友だちとの関係を崩したくない」といった友だちとの関係からだけではなく、自分の思いや考えを「ことば」にすること自体を苦手としているため、もやもやした気持ちを、別の方法で発散してしまっている子どもたちも多いように感じています。「学力の向上」とも関連しますが、様々な機会に、思いや考えを書かせたり、伝えたりする機会を増やしてきたことで、思いや考えを「ことば」で表せるようになってきたことも、「安心感」につながっていると考えています。これからも、子ども自身が、自分の「ことば」で、思いや考えを伝えることができるように、書いたり、伝えたりする機会を持っていきたくと考えています。

項目	目標値	さくねん度 昨年度 数値	がっき すうち 1学期の数値	
			じどう 数値 【児童】	ほごしゃ 数値 【保護者】
マニフェスト 「自分が好き、自信がある」と言える子ども	【80%以上】	55%	66%	
マニフェスト 「学級は話しやすい雰囲気がある」と言える子ども	【80%以上】	78%	79%	
マニフェスト 自分の思いを言葉や文字で伝えることができるようになってきたと実感できる子ども	【85%以上】	62%	74%	79%
マニフェスト 友だちのことで初めて知ったことがあったと感じている子ども	【80%以上】	62%	82%	
がっこう 学校は楽しいと思っている子ども		89%	89%	97%
かぞく 家族の人とよく話をする。		90%	86%	91%

1・2年生 読み聞かせコンサート「お話の国アリス」さん(7/5)

子どもたちが本を好きになってほしいという願いから、絵本の読み聞かせサークルの「いがぐり」さんにも来校いただいておりますが、今回は、いがまちを中心に絵本の読み聞かせ活動が続けられるボランティア団体「お話の国アリス」さんに来校いただき、読み聞かせをしていただきました。読み聞かせと言っても、「お話の国アリス」さんの場合は、ギターやキーボード、オカリナなどの楽器を演奏しながら、効果音を入れたり、手遊びをしたり、体を動かしたりといった子どもたちを飽きさせない工夫が盛りだくさんで、いつも時間があっという間に過ぎます。

子どもたちが大好きな手遊びに、上の「でんでらりゅうば」があります。初めてやった1年生は、最初は戸惑っていましたが、すぐに上手にできるようになりました。1年生と2年生の保護者の方は、是非、家で子どもたちに教えてもらってください。

なお、「お話の国アリス」さんですが、子どもの読書意欲を高めるため特色ある実践をしている学校、図書館、市民団体などを表彰する文部科学省の「子供の読書活動優秀実践校・図書館・団体」の部で、県内の団体で唯一、文部科学大臣表彰を受けられました。

これからも、楽しみにしています。



同窓会の方に草刈りをしていただきました。(7/9)

毎年、この時期に、本校の同窓会の役員さんと評議員さんに、「昆虫の森」と駐車場の草刈りをしていただいております。今年は、さらに、学校の東側にある「学校園」の草刈りもしていただきました。猿が出没するようになるまでは、その「学校園」で、さつまいもの栽培を全校でしていたそうです。また、「昆虫の森」は、子どもたちが昆虫と触れ合ってほしいとの思いから作られた森で、数年前からは、冬に、2年生が、原木に椎茸菌を打って、それを「昆虫の森」で栽培していて、数年後、その木が朽ちた時に、そこに、カブトムシやクワガタなどが卵を産み付けてほしいという構想の下、取組を進めてきています。

先日、2年生が「昆虫の森」を訪れた際に、大きな鹿の角を持ち帰ってきたので、正面玄関のガラスケースに展示しました。

